

烏合の衆

烏合の衆とは中国「後漢書」にある言葉。

「烏合とはカラスの集団のことでカラスが集まっても、ギャーギャー鳴いてうるさいだけで統一性にかける。

規律や統制もなく、ただ寄り集まっただけの群集・軍勢で役立たずな人の集まり」とある。

織田信長がなぜ、最強の騎馬軍団を長篠の合戦で滅ぼすことが出来たか？

それは烏合の衆と、規律が保たれ近代兵器を備えた戦闘集団との決定的な差だ。

信長の兵隊は全て禄(給与)を与え、日々戦闘訓練をした兵隊。

かたや武田軍は各軍団の長にこそ、武田二十四将と呼ばれる勇猛果敢な猛将がいたが部下の兵隊は全てが百姓、つまり烏合の衆だった。これでは勝てないのは当たり前。

ビジネス界においては、多くの経営者が集まる異業種交流会や団体があるがこれはいろいろな意味で役に立つ。

しかし 同業種の社長が集まって作った団体や、〇〇組合などは、はっきり言って烏合の衆。談合をする以外に用をなさない。

**弱者の集まりに参加すると自分まで弱くなる
烏合の衆になるな**



情報提供: 特別情報誌

北洲、高性能省エネ住宅を本格展開

北洲(宮城県富谷市)は高い断熱性能などを備えた省エネ住宅「パッシブハウス」を本格展開する。

同社が手掛ける注文住宅全棟を同タイプに転換する。「パッシブハウス」は断熱性能の高い建材などを使用、エネルギー消費量を3割程度削減できるという。価格は従来の注文住宅と同水準とする。性能測定では東北大学も協力した。

大屋根で深い軒を作るなど省エネを重視したデザインを採用した。大屋根を作ることで遮熱性能が向上。窓についても日射を吸収しやすくし、冬季は室内を温かくする効果を持たせた一方で、遮熱効果のある網戸やブラインドなども活用し、夏季は日射を遮れるようにした。

外壁には一般的な断熱材の約2倍の断熱性を持つドイツ製の断熱材を使用。内装には蓄熱性能が高く室内の温度変化を緩やかにする壁材を使った。

同社は今春、仙台市内に「プレミアムパッシブハウス」と名付けた実証住宅を建設。東北大学と共同で室内温度の変化や、消費電力の測定などを続けてきた。その結果、同社の従来型の注文住宅と比べ冷暖房や給湯、照明などに使う直接的なエネルギー消費量を、3割程度削減できることが確認できたとしている。

また、室内環境の測定(今年7月、家電製品は換気扇のみ運転)では、外気温が変動しても室内温度は25度前後でほぼ一定していたという。

こうした結果を受けて、今秋から注文住宅全棟を「パッシブハウス」として展開することにした。高性能の建材使用などで建設コストは上昇するが、同社では「上昇分は企業努力で吸収し、価格には影響しないようにする」としている。1坪(3.3平方メートル)当たりの価格は66万円から(仙台エリア)と、従来型と同水準にする。



情報提供: 日本経済新聞